

ワイマールご一行歓迎の次第

会員 西澤英男

11月17日夜6時、会場に響く和太鼓の勇壮な音は迫力満点であった。ワイマール市長Dr. ゲルマー氏一行をお迎えするウエルカムミュージックなのだが、スキップにはとりわけズシンとこたえた。会長以下、挨拶が終わってもなお、おなかの震えは止まらない。間近で耳にする和太鼓の音のすごさだ。震えをおさめるには、ご馳走でおなかを満たすにしくはない。乾杯が済めば、何はともあれ食べることだ！

恒例となったわれらが「アムゼルの合唱」、回を重ねる毎に梶井智子さんの指揮のもと歌声も堂に入ってきているのは嬉しい限りである。曲目もドイツ語の赤トンボなど、とても良かった。ついでアカペラでゲルマー氏のバリトンが響く。曲は強い絆で結ばれた仲間の歌。昨今カラオケでやたらと人前で安普請の持ち唄をひけらかすのが流行りだが、ゲルマーさんの歌はそれとは一味も二味も違い、会場をうならせた。

会もたけなわ、いよいよ歓迎会のアトラクションイベントがはじまる。和太鼓は法被姿も勇ましいお姉さんたち、津軽三味線は和服姿のお兄さん、それぞれの熱演に会場は一層熱気に包まれる。遠来のバウハウス夫人は「今日、初めて眺めた富士山に感動し、ドイツ国旗をデザインしたネクタイで決めた湘南日独協会会員に日独友好の証を見て感激した…」とスピーチして参加者一同から拍手喝采を浴びた。日本語とドイツ語が飛び交う会場にあまり違和感がなかったのは通訳を務めたオペラ歌手の木村女史によるところ大であった。こなれた日本語が咄嗟に口から出る語学力には舌を巻いた次第。ドイツ滞在が長い人でもなかなか出来ることではない。会が進行する間に、例によって宮下画伯はお土産用の似顔絵をスケッチしていた。

末筆ながらご案内役の織田さん、松野さん、川本さんご苦労様でした。また、司会の三谷さんや裏方を務めたみなさん、お疲れさまでした。

湘南日独協会 2005 年度活動予定

※恒例の忘年パーティは11月17日にワイマールご一行の歓迎会がありましたので、今年には行わないことになりました。

■ 1月22日(土) 第37回例会・定期総会

講演会 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢

■ 2月26日(土) 会員懇話会

卓話 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢

■ 3月26日(土) 第38回例会

講演会 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢

■ 4月23日(土) 会員懇話会

卓話 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢

■ 5月28日(土) 第39回例会

講演会 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢

■ 6月25日(土) 会員懇話会

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL. 6. NO. 6. 通巻36. 発行 2004. 11. 27.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

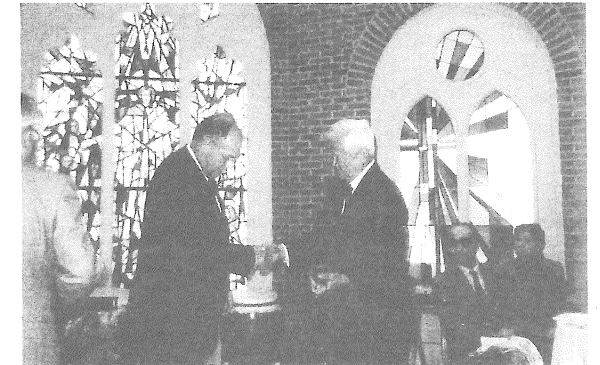
Der Wind

(風)

ワイマールご一行歓迎会

11月17日午後6時より湘南クリスタルホテルの宴会場ラ・バリックにおいてワイマール市ゲルマー市長とワイマール日独協会一行6名の歓迎会を賑やかに行いました。参加者は50名でした。

※詳細は別項の西澤氏のレポートをご覧ください。



握手を交わす岩崎会長とゲルマー市長

湘南日独協会 第36回例会

【講演会】水の力で物を動かす

日時 11月27日(土) 午後1時30分～

講師 宮川新平氏 (株)タカコ

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2F ロータスホール

※講師からのメッセージは裏面に掲載

【講演会】水の力で物を動かす

日時 11月27日(土) 午後1時30分～

講師 宮川新平氏 (株)タカコ

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

講師からのメッセージ

皆さん理科の時間です。技術屋さんより経済屋さんの方に人気がある時にこんな話して！ まあ、聞いて下さい。昔、中学の理科の時間で「パスカルの原理」を勉強しました。忘れました？ そう、これは小さい力で大きな物を動かす便利な法則なんです。皆さん、街の工事現場でパワーショベル見かけませんか。物を運んだり穴を掘ったりしているでしょ。あれですよ。運転室にはオペレータが手をちょっと動かすだけであんなすごい仕事してしまうんです。なにやら光っている棒が見えるでしょ。あの中には油が入っているんです。世間ではあの動かす技術を「油圧」って言います。

ところで、昔はそう、イギリス産業革命の頃まだ石油がなくて、川の水使っていたんです。皆さんロンドンのテムズ川に架かっているロンドン塔の橋、上がったり下がったりして船を通してあの橋。ポンプで水に圧力を与えてその力で動いているのです。それにパリのエッフェル塔のエレベータ、今でもセーヌ川から水を引いてその水を利用して観光客を上へ上げているのです。凄い力ですね。でも水を使うと鉄は錆びてしまうし、水も腐るし当時は随分困ったんです。しかし「パスカルの原理」を使うと馬鹿力が出るので当時、イギリスでは多くの機械やエレベータがこの原理で動いていました。その後石油が発見され、錆びないし、油はベトベトするけど、こすれる所には皆さんは油を注しますよね、あれですよ。凄く便利でマシンに

は必ず油さしが付いていて。でも手に触れると汚くて、おちなくて、便利だけど困めますね。いま機械にはほとんど油が使われて、工場見学ではあの機械の臭い、すぐに思いだせますよね。油が漏れたり、蒸発して臭いを発生したり。そう今話題の環境問題に触れてくるのです。

最近は食品でいろいろ衛生上の社会的問題が発生し、工場が油火災を起こしたり。また、一部の住宅のホームエレベータにも油の力を利用して、工場だけでなくいろいろ動きに油を使っています。ここで考えてみませんか。油の代わりに昔の「水」を使えばこぼれてもきれいだし、水が無くなったなら水道から引けば良いし。錆びるって、それは昔の話ですよ。今はプラスチック、セラミック、ステンレスなんてハイテク材料が出回っているではありませんか。昔の水圧の時代は電気も不十分で、石炭による蒸気ので機械が動いていました。大きな力が必要なときは「水圧」が使われてきいたんです。

今ここで話題として再度登場させる「水圧」の目的は環境です。きれいで、衛生的で、こぼれても周りを汚さない、臭いはしないし、なんといっても水道水は人間が一番慣れ親しんだ流体だから心配は要らないでしょう。例えば食品機械は使用後そのまま水で洗えたら便利と思いませんか。

皆さん焼き鳥を食べていますよね。最近あるメーカーが鳥のもも肉、手羽先、胸肉、そしてスープのもとになるガラ、これを一時間に1500羽さばく機械を世界で初めて開発したんです。今までは全て人手でやっていました。人が一回肉に触るとどれくらいの細菌が付くのか知っていますか。皆さんが食べている鳥の多くが今ではこんな機械で作られているんです。さらに半導体や薬、化粧品などに使えるように研究が行われています。20年も長い開発の歴史を今回は写真で分かりやすく紹介しましょう。

“日本に於けるドイツ年”に向けて 「ツェッペリンNT」号が やって来る!!



ツェッペリンNT号

1929年、飛行船ツェッペリン号は、はるばるとドイツから世界一周の途中で日本に立ち寄り、大変な話題となりました。それから75年が経ち、今度は「ツェッペリンNT号」が再び日本とドイツの架け橋としてやってきます。

1993年ツェッペリン飛行船技術会社が復活、新型飛行船の開発に着手し、そしてついに完成されたのがツェッペリンNT(ニューテクノロジー)号です。ツェッペリンNT号は、内部にカーボンファイバー製の骨組み構造を持った半硬式飛行船で、可動チルト式の200馬力の航空用エンジンとプロペラを船体中央部に2基、船尾部に1基の計3基を装備、新素材の合成繊維で軽量強靱なエンベロープを構成していて、ゆったりしたキャビンも大きな魅力です。ドイツで2001年8月から始まった商業観光遊覧飛行も大好評で、現在も一万人近くの搭乗予約が入っています。ほぼ一世紀前の技術と最先端の技術を組み合わせて生まれたツェッペリンNT号はまさに21世紀のライフスタイルを象徴した船になることは間違いないと思われます。

今、人類は大きな方向転換をしようとしています。地球を壊さず、自然を汚さない、そういう産業文明をつくっていかねければ、子孫に健全な環境を残せないことは個人としてはほとんどの人が理解し、また憂うところです。自然と調和して生きる技術と文明に想いを馳せたいものです。〔編集部〕